

区民のよりどころとなる図書館を目指して

(提 言)

平成 31(2019)年1月

第 11 期 葛飾区社会教育委員の会議

区民のよりどころとなる図書館を目指して

(提 言)

本会議において、標記のテーマについて協議を重ねてきましたが、このたびこれを取りまとめましたので提言いたします。

平成 31 (2019) 年 1 月 11 日

葛飾区教育委員会 殿

第 11 期 葛飾区社会教育委員の会議

議 長	上田 幸夫	副議長	朝野 熙彦
委 員	糸賀 雅児	委 員	竹高 京子
委 員	山浦 敬子	委 員	山田 雄二
委 員	風澤 明子	委 員	入山 賢一

目 次

はじめに	1
1 葛飾区民の読書と区立図書館の現状	2
(1) 読書をめぐる社会環境の変化	
(2) 葛飾区の図書館のあゆみ	
(3) 葛飾区立図書館の現状	
2 葛飾区立図書館をめぐる重点課題	4
(1) ネットワーク社会の弊害	
(2) 読書相談の対応	
(3) 施設・設備のメンテナンス	
(4) 図書館ボランティア活動	
3 葛飾区立図書館の基本理念	7
(1) 図書館の基本理念	
(2) 人と人をつなぐコミュニティづくりの拠点	
4 課題の解決策	8
(1) 幅広い区民ニーズに応える	
(2) 「居場所」としての図書館づくりを進める	
(3) 地域の公共空間として機能する	
(4) 学校図書館との連携を強める	
(5) 図書館職員の専門性を高める	
おわりに	10
資料編	12

第11期 葛飾区社会教育委員の会議の提言

「区民のよりどころとなる図書館を目指して」

はじめに

葛飾区立図書館では、2014（平成26）年度から2018（平成30）年度を実施期間とする教育振興基本計画に基づく『葛飾区立図書館の基本的な考え方【取組方針】』によって、「いつでも、どこでも、だれにでも 区民の拠り所となる図書館」を目指してさまざまな取り組みを行ってきた。2018年度にこの「取組方針」が実施期間を終了することから、新たな取り組み方針を策定するために、本年は中長期目標を見通した葛飾区の目指すべき図書館像を提起する時期にあたる。

図書館による生涯学習の振興とともに、葛飾区教育委員会では、「かつしか区民大学」をはじめとするさまざまな生涯学習事業を展開している。「かつしか区民大学」では、区が企画する講座、区民や団体が区と協働して企画する講座、大学などの教育機関との連携講座といったように、幅広い学習編成の方法を展開し、学習機会の充実につながっている。また、講座の受講履歴を学習単位として認定する制度を設け、学習の継続を促すしかけを作っている。

さらに、区内にはさまざまな団体が自主的・自発的に学習の機会を創り出し、教育行政による支援を受けながら、多面的な学習活動を展開している。

これらの学習の成果が、区民のさらなる学習・文化活動や地域活動につながるような仕組みづくりを進めていくことが重要である。

こうした生涯学習の振興には、社会教育施設の整備と社会教育職員による専門的な支援を要することが多い。そのため、図書館をはじめとする社会教育施設の整備・充実や、区民の学習支援につながるような職員の働きが、強く求められているといえよう。

一方で、社会においてはICT（Information and Communication Technology 情報通信技術）の発展と普及に伴い、人々の情報収集行動と生活スタイルが大きく変化している。こうしたネットワーク社会が、逆に個人を孤立させるような社会問題も起きており、評価が分かれるところである。図書館の在り方は、今日そしてこれからの情報環境に深く関連していることから、情報化社会の動向を視野に入れながら、これからの図書館の姿を検討したい。

本提言では、図書館が「知の拠点」であるという基本を十分に踏まえながら、「区民のために図書館が今後果たすべき役割は何か」という基本理念を掲げ、葛飾区に求められる図書館像を提言していきたい。

1. 葛飾区民の読書と区立図書館の現状

(1) 読書をめぐる社会環境の変化

I C Tの急速な進展による生活スタイルの高度化や、区民意識の複雑・多様化などにより、読書を取り巻く状況は大きく変化している。

ネット社会が進展する起爆剤になったのは、1995（平成7）年からのパソコンの急速な普及であった。さらに2010（平成22）年以降は利用者層に大きな変化が起きている。小学生や幼稚園児でもスマートフォンやソーシャルネットワークによる対戦ゲーム機を扱い、誰が強制するでもなくインターネットを介して社会とつながるようになってきている。日本では2017（平成29）年から普及がはじまったスマートスピーカーは、音声で発した質問にA I（Artificial Intelligence 人工知能）が音声で応答してくれる。最近では家庭でも気軽に使用する人も増え、CMも頻繁に流れている。

何でもA Iに頼るという時代の風潮の中で、分からないことがあれば本を読まずにスマートフォンやタブレットに質問して済ませる人たちは少なくない。最近では、中高年の世代でもスマートフォンに音声で質問する姿を目にするようになってきた。一方、読書はどうかといえば、全国大学生協が2017年に実施した調査によると、大学生の半数は1日の読書時間が0分であり、若い層の活字離れ、本離れが進んでいる。全国の書店数も10年前は1万4千店あったのが2017年には1万店に減少している。

インターネット環境や電子書籍の普及によって、情報が電子化される中で、紙の媒体に触れる機会や必然性が減少しつつある。最も重大な変化は人々が在宅でも外出先でも場所を問わず情報を検索できるようになったことである。このような社会の変化の中で、図書館の在り方があらためて問い直されるのは必然といえよう。

他方、近年、カフェや書店を併設し、複合施設化するなど、自治体によってさまざまな形態の図書館が設置されて社会の関心を集めている。図書館は従来からの「本を借りるところ」「本を静かに読むところ」というサービスにとどまらず、地域住民が自らの課題を解決する場所として、サービス範囲の拡大が模索される時代になったのかもしれない。

これから中長期の葛飾区の図書館の目指す方向を考えるにあたり、以上のような社会環境の変化を踏まえる必要がある。

(2) 葛飾区の図書館のあゆみ

葛飾区立図書館は、戦後1949（昭和24）年に立石に開設された「葛飾図書館」（現在の立石図書館）が、その第一号である。その後、高度経済成長期の1967（昭和42）年4月に新宿に「葛飾図書館」が開館し、立石の図書館は「立石図書館」と名称変更した。新宿の「葛飾図書館」は、[表1]のとおり、1970年代後半以後に区内各地に開館した区立図書館の中心館機能を担ってきたが、2009（平成21）年に金町に「中央図書館」が開設された後は、中心館

機能を「中央図書館」に移し、小規模の地区館として地域住民を中心に利用されることとなった。

現在、葛飾区内には、中央図書館1館、地域図書館6館、中央館の分館として地区図書館が6館と、全部で13館の図書館があるが、これは1980（昭和55）年に策定された『葛飾区基本計画』の中で定められたものである。この計画は、2016（平成28）年の「こすげ地区図書館」の開館をもって完了している。

[表1] 葛飾区立図書館の開館

年	月	葛飾区立図書館の開館	館数	
1949	昭和 24	1	葛飾図書館（現「立石図書館」）	1
1967	42	4	葛飾図書館（現「新宿図書センター」）	2
1977	52	6	○お花茶屋図書館	3
		10	○上小松図書館	4
1981	56	10	○亀有図書館	5
1982	57	6	○水元図書館	6
1987	62	6	○鎌倉図書館	7
1996	平成 8	12	●四つ木地区図書館	8
1999	11	6	●西水元地区図書館	9
2004	16	5	●青戸地区図書館	10
2009	21	10	◎中央図書館	11
2011	23	4	●奥戸地区図書館	12
		6	○立石図書館建替え（エコライフプラザとの複合施設）	12
2016	28	3	●こすげ地区図書館	13
2017	29	10	新宿図書センター休館	12

※蔵書数の目安
◎中央図書館 約40万冊
○地域図書館 約10万冊
●地区図書館 約3万冊

次に、図書館サービスの分野に目を向けてみると、計画的なサービス推進や考え方は次のように策定され、実施されてきた。

- 『葛飾区立図書館基本計画』2003（平成15）～2012（平成24）年度
多様化する区民ニーズと、急速に進展するICTを活用した新たな図書館サービスが定められた。
- 『中央図書館開設にあたっての基本的な考え方』2004（平成16）年
中央館施設整備の基本的な考え方と、中央館、地域館、地区館の役割の違いが位置づけられた。
- 『葛飾区立図書館の基本的な考え方【取組方針】』2014（平成26）～2018（平成30）年度
「いつでも、どこでも、だれにでも 区民の拠り所となる図書館」を基本理念に、図書館の取り組みの具体策が打ち出された。

(3) 葛飾区立図書館の現状

葛飾区立図書館は、幅広いジャンルの資料を充実するだけでなく、区民の身近な課題解決を支援するため、ビジネス、医療・健康、法律など、区民生活に関わりの深いテーマ別のコーナーを設置し、情報支援サービスを展開している。2017（平成 29）年度には、立石図書館に「認知症ナビ」、中央図書館に「多読コーナー」が新設されている。

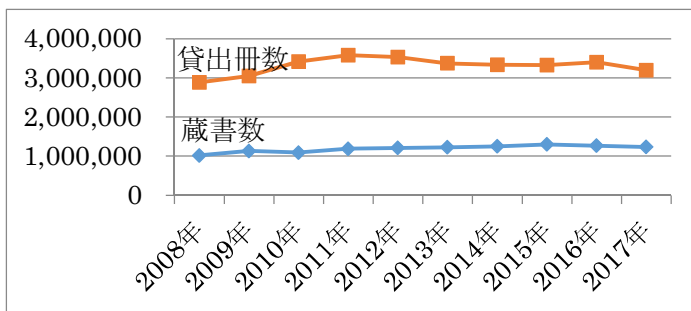
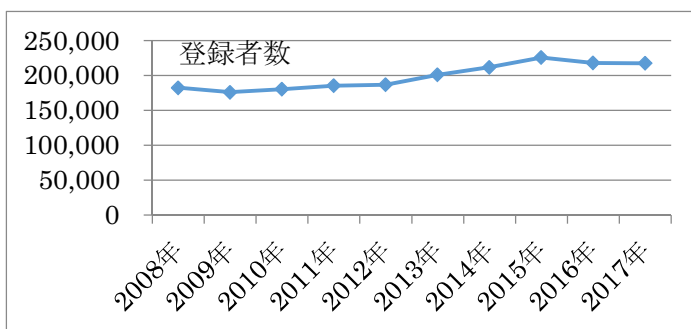
また、児童サービスにおいては、0歳から小学生まで、子どもと本を結びつけるための途切れない読書支援や、学校図書館との連絡会や、学校図書館司書の研修会などを実施している。

一方、図書館利用の利便性の向上のため、中央図書館と立石図書館において、月～土曜日は午後 10 時まで開館（日曜・祝日は午後 8 時まで）、年末年始も開館するなど、開館時間の延長を図るほか、2014（平成 26）年の新小岩駅東北広場を皮切りに、2018（平成 30）年までに区内駅等 5 か所に「図書返却ポスト」が設置されている。

そのほか、2015（平成 27）年に、スマートフォン版の O P A C（Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録検索システム）や中央図書館への W i - F i 環境の導入を図り、情報へのアクセス環境の整備にも取り組んでいる。

このようなサービスの拡充とともに、2009（平成 21）年の中央図書館開館以後は、登録者数、蔵書数、貸出冊数共に増加してきたところであるが、この数年は停滞傾向にあることも見逃すことはできない。

2015 年以後、毎年実施している「葛飾区立図書館の利用に関するアンケート」（対象は中学生以上）で示されている利用者の声とともに、(1) で述べた社会環境の変化と、上記の葛飾区立図書館の現状を踏まえて、区・区教育委員会、そして葛飾区民が、ともに取り組むべき重点課題を次節で抽出していく。



登録者数、貸出冊数及び蔵書数の推移

2. 葛飾区立図書館をめぐる重点課題

(1) ネットワーク社会の弊害

インターネットを通じて交換される情報が文字に限定されず音声や動画といったマルチ

メディア情報になったこと、そして情報の双方向性は、人々の生活に利便性をもたらしたことは間違いない。その一方で、SNSによるいじめや自殺ほう助など、インターネットの利用には負の側面があることを見逃すわけにはいかない。

さらに、近年では子どもたちのインターネットへの過度な依存、つまりインターネットに縛られた生活が、教育上深刻な問題を起こしていることも軽視してはならない。例えば、対戦ゲームや電話をしながら自転車に乗って事故を起こすなど、インターネットに起因するさまざまな問題が発生している。漢字が書けなくなった、物忘れが増えたという「スマホ認知症」も指摘されている。これらは、学校教育というより、主に社会教育が対応しなければならない問題であるかもしれない。情報リテラシーと情報マナー（「ネチケット」と呼ぶことがある）の社会教育に、図書館はどのように寄与できるのだろうか。

（２） 読書相談の対応

インターネットにはさまざまな相談サイトがある。衣食住そして健康に関する疑問にも、検索すれば答えてくれる。

同様に書籍についても、読みたい本を個人にあわせて推薦してくれるサイトがあり、他の読者による口コミ評価も知ることができる。また、読みたい本がどの図書館に所蔵されているのか、さらに、それが貸し出し中なのか、という疑問に対しては、すでに現在の葛飾区立図書館の情報システムが答えている。

つまり、インターネットは、部分的ながらも「図書館司書」が従来からしてきた機能を代行している。レファレンスの役割は、調査研究を援助して、求める人に必要な図書を紹介することである。しかし図書館利用者のアンケートによれば、40%の人がレファレンスを知らないか利用したことがないと答えている。こうしたことからすると、中長期的には、図書館司書の役割、また、レファレンスの在り方の再定義が必要であろう。読書の相談に応えてくれるのは誰なのかを問い直すことは、新しい課題といえよう。

一方で、インターネット検索には、解説や記事の信憑性の点で不安がある。その点で、図書館によるレファレンスは、信憑性のある情報を提供することを基本機能としている。だれもが、いつでも、どこでも同じ情報を受けることができる。しかもレファレンスは、区民と図書館職員（司書を含む）が出会うことにより、人と資料、人と人を結びつけ新たな関係性を創り出す大切な接点だということも、図書館の目指す方針を策定するにあたって考慮すべきではないだろうか。

（３） 施設・設備のメンテナンス

館内設備の老朽化の問題は、区民の声として挙がってきている。利用者アンケートでは、中央館建設以前に建設された既存館に対して、①施設や設備の老朽化、②古いトイレ、③空調不完全等による館内の臭い、④汚れた資料、⑤メンテナンスの行き届かない備品、これら

に対し改善を求める声が寄せられている。こうした声に応えるべく、メンテナンスが行き届いた、清潔で明るい図書館づくりを心掛け、区民が安心して気持ちよく使える図書館の環境整備が求められている。

今後、改築時期を計画的に立案していく必要があることは言うまでもないが、それとともに、区の公共施設の再編・整備計画の中で、図書館の果たす社会教育・生涯学習機能を受け持つ関連施設整備の必要性もまた大きな課題といえる。すなわち、地域社会教育施設の整備とともに、図書館の施設整備を行うことも急務の課題である。

このほか、資料の貸出・返却コーナーなどサービスポイントの増設、Wi-Fi環境の整備、閲覧席の増加など、図書館利用の利便性を求める意見が多い。

(4) 図書館ボランティア活動

図書館の活動は、区民自身がともに参加して創り出していくものである。しかし、図書館を支えるボランティア活動について「利用なし（知らない）」とする人が約60%以上である（2015（平成27）年以降のアンケート結果から）。ところが実際には、図書館の多様な活動は、多くのボランティアによって支えられており、利用者がボランティア活動とは知らずに利用しているケースもあると思われる。

これまでは、ボランティア活動に関心のある人たちだけが積極的に活動に参加するケースが多く、関心のない人、知らない人に情報が行き渡らなかったのではないだろうか。今後は、図書館のボランティア活動について、さらに多くの人たちに関心をもち参加してもらうようなPRが必要と思われる。

現在、どのような人たちが、どこで、どのような活動をしているのか、そして、これからの図書館活動を支えるため、また深めるためにも、どのようなボランティア活動ができるのか、区民一人ひとりが考え、活動に参加していこうとする意欲につなげていくことが重要と思われる。こうしたことが葛飾区の図書館の価値を高め、区民の生涯を通しての活動の場となるのではないだろうか。



会議の様子

3. 葛飾区立図書館の基本理念

(1) 図書館の基本理念

本を取り巻く状況は、年々厳しさを増している。過去 10 年間の書籍・雑誌の年間発行部数の減少は公表されている資料から明らかである。この事実から懸念されることは、特に若い層における活字離れ、読書離れの傾向である。

そもそも、図書館という存在は古代メソポタミアに始まり、数千年にわたって人類の叡智を育て、後世に伝えてきた「知」の宝庫であった。また、知を蓄積するだけでなく新たな価値を創造していく場でもあった。

21 世紀に入り、情報化の進展が著しく、今後とも情報の電子化は拡大していくと予想される。しかしその一方で、伝統的な紙媒体の書籍の必要性を忘れてはならない。

書籍は反復して熟読するのに適した媒体であるために、読者の深い理解につながる。専門書に限らず小説、芸術、そして歴史の本も、一冊の本を通読してこそ読者は理解が深まるし、読書を楽しむことができる。用語検索のような断片的なレベルの情報だけでは物事に対する体系的で深い理解は得られないだろう。

今、近年の活字離れの時流にあえて逆らって、社会教育的な視点から、書籍を中核においた図書館の伝統的な価値を守り育てるべきである。

(2) 人と人をつなぐコミュニティづくりの拠点

葛飾区は、伝統的な文化や風習を大切にしている地域コミュニティが色濃く残っている土地柄である。葛飾菖蒲まつりも、各地区の秋祭りも、人々が集まって協力するからこそ継続できている。このような人と人との直接的な集まりを大切にするのは、葛飾らしい魅力ではないだろうか。

図書館は、今や、地域の多くの人たちにとって親しみのもてる生涯学習施設へと育まれてきたといえよう。また、「生活や仕事の課題解決のお手伝いをします」といったメッセージを発信し、従来の図書貸し出しにとどまらない機能を拡充してきている。さらに、行政支援サービスにも取り組み、収集した行政資料をわかりやすく区民に届けるとともに、誰もが気軽に立ち寄れる場としてのイメージができてきている。

それとともに、地域のイベントや行事に関連した展示や図書紹介を進め、行政の関連事業との連携・協働が進められている。子どもの読書活動の拠点としても大きな役割をもっている。小さい子どもへのブックトークやお話会といったように、乳幼児やその親たち向けの読書環境づくりが進められている。近年、高齢者サービスの充実に力点がおかれ、朗読会や、データベース講習会等は、情報リテラシーの支援にも大いに役立っている。

注目すべきは、図書館ボランティアが積極的に活動を展開し、図書を介してコミュニティを形成する役割を担うようになってきていることである。このようにして、区立図書館は、地域

のボランティアを育成して地域コミュニティの形成に貢献している。

総じて、公共図書館は、図書を介して人と人とをつなぐ役割を担っているのである。図書館は、1つの話題について多角的に考え、語り合う場、すなわち「文化サロン」であり、人々が集まって共通した話題について議論できる場として、さらにはコミュニティづくりの拠点ということができる。

4. 課題の解決策

(1) 幅広い区民ニーズに応える

勤労世代や、子育て中の区民は図書館との縁が遠くなりがちである。この世代への施策はとくに重視すべきである。なぜなら従来の教育行政から取り残されがちだったのが、この若年者でもなければ高齢者でもない中間世代だったからである。

図書館は、本の貸し出しにとどまらず、イベント活動、地域との連携・協働事業の導入等を通して、働き盛りの人たちや子育て世代へのアプローチを積極的に行うことを期待する。

1章で述べた葛飾区の図書館の現状において、貸出冊数や登録者数の停滞傾向は気になる点であるが、その主たる原因は、日本社会全体の「本離れ」の傾向だと推測される。これは、必ずしも図書館に原因があるわけではない。今後、図書館のさらなる事業展開により、図書館への関心を高め、貸出冊数などの上昇につながることを期待したい。

また、バリアフリーは施設面だけでなく、情報メディアにおけるバリアフリーという対応も推進し、あわせて国籍、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、多様な人々が利用できるサービスの推進が求められよう。

中央図書館以外の地域図書館や地区図書館では、施設面での老朽化対策をしっかりと施す必要性を踏まえ、区内の図書館全ての居心地の良さの追求が望まれる。建て替え等が計画される場合は、基本的には独立型の図書館が望ましいが、立地条件等、今後の状況によっては複合型となる可能性も視野に入れていくべきである。

いずれにせよ、より多くの区民への利用を図っていくには、毎年のアンケートだけではなく、利用者層や利用時間などに関する調査、統計分析を行い、的確に区民ニーズを把握することを提言する。

(2) 「居場所」としての図書館づくりを進める

現在ある読書のスペースにとどまらず、さまざまな目的や理由で立ち寄れる図書館運営に心がけ、「居場所」としての機能を高めることを求めたい。「おしゃべりの場」、「グループの打ち合わせ場」、「のんびり趣味を楽しむ場」、「赤ちゃんや子どもが遊ぶ場」、「試験勉強の場」といった多面的な場としての役割をもつ図書館設計が必要になってくる。

だれにとっても、居心地の良い図書館にしていくためには、そこでの職員・スタッフの専門性や仕組みづくりが必要である。

自由に居ることができる場所の提供だけを考えるだけでなく、本来の図書館機能を守りつつ居心地の良い場所をつくるためには、区民による協力や協働が必要となってくるだろう。本を介して「つながる」ための「居場所」としての環境づくりは、区と図書館と区民との協働によって創られるのである。

(3) 地域の公共空間として機能する

図書館が、地域を活性化させ、にぎわいを創出する活動拠点の役割を發揮することを期待したい。新しい地域のボランティアグループを創出できる場所として図書館が機能するように、図書館を通じて地域とのつながりや協働の場づくりを積極的に推進することが求められる。

そのために図書館が担う分野として最も重要なのが、地域情報、歴史文化、環境問題、教育、経済などの幅広い分野の地域情報の収集と提供である。さらに、「かつしか区民大学」や「わがまち楽習会」、「子育て講座」などの社会教育事業との連携、地域在住外国人のために地域情報を掲示する「わがまち掲示板」(仮称)の設置などを、広報活動の強化も含めてより一層広げることにより、生涯学習や子育ての拠点としての図書館の側面を拡充することが望ましい。

図書館が、こうした取り組みを推進し、いっそうその役割を確実にしていくためには、生涯学習施設の設置が、重要な課題と言わねばならない。ともすると生活に追われ、生涯学習の場から疎遠になりがちな世代にとっては、図書館にとどまらず、生涯学習施設の整備が特に重要であり、これらが図書館と相互に連動することによって、いっそう豊かな公共空間を創造することにつながるものと確信する。

(4) 学校図書館との連携を強める

自分がめぐり会うべき本を手渡してもらえた子どもは、大人になっても本が好きである。そのことを踏まえた上で、図書館は学校図書館との連携をさらに進めていくことが望まれる。その場合、子どもの読書活動を推進するために、学校司書と図書館職員とが連携を強化することが必要である。

地区図書館と各校がインターネット環境でつながり、全ての学校が学習に必要な本を必要な時に活用でき、すぐに取り寄せることができる環境は望ましい。「葛飾区教育振興基本計画」にも示される「学習センター」の活動との連携が重要である。そのためにも、学校司書の常駐化に向けた時間数増と待遇改善が必須のことと思われる。

学校図書館がより地域に開かれた場所として活用され、子どもたちの「居場所」として活かされ、かつ、ネットワーク化された蔵書を通して区立図書館とつながりを持ち、一方、区

立図書館は、その地域のハブとして地域の行政と連携し、情報を共有していくことが望ましい。

(5) 図書館職員の専門性を高める

図書館は、利用者の可能性を拓げるためにある。人々が、自分の意欲と能力によって、自分の力を伸ばすことができるよう援助することが、図書館の大切な役割である。図書館がその役割を果たすためには優れた職員が欠かせない。

2章でも述べたように断片的な情報ではなく、物事をより深く理解するためには図書館職員による的確なレファレンスが必要である。その専門性により、必要な資料、本、情報を得ることができ、区民は生涯学習を進めていくことが可能となる。だからこそ、区民のニーズを把握し、それに沿って専門的にサポートができる人材の育成・配置が求められる。

図書館のレファレンスサービスを充実させるには、地域住民のニーズを把握し、ICTを使った各図書館間での情報共有や各分野での司書のスキルアップと、専門・関係機関との今まで以上の連携が必要である。

現在、図書館の業務を担うのは一般行政職職員である。葛飾区の図書館づくりの過程では、一般行政職職員が専門性を磨き図書館サービスの向上を図ってきたのである。ところが、数年ごとに部署が変わってってしまう実状も一方にあり、地域への密着や区民とともに図書館をつくり上げていくという点から考えると、腰をすえて専門的に従事する安定した職場づくりが必要不可欠である。専門性の高い図書館司書が常時図書館にいるということは、葛飾区の財産になるだろう。

おわりに

第11期葛飾区社会教育委員の会議は、図書館の在り方をめぐる諮問を受け、新しい図書館の動向の調査研究を重ね、これからの葛飾区の図書館の在り方を検討してきた。

葛飾区立図書館は、図書の貸し出し機能を第一として整備充実が図られ、開館時間の延長や貸し出しの仕組みの工夫の取り組みが進められてきた。さらに、レファレンス機能の充実をはじめ、蔵書の検索・予約、オンラインデータベースの利用等の情報化への対応が図られてきている。

他方、子どもの読書活動の推進のために、児童図書等の充実や、児童室・児童コーナーなどのスペースを拡充し、親しみのもてる図書館づくりを進めてきている。それとともに、地域の読書活動をサポートするボランティア団体・グループの活躍も目覚ましい。こうした社会的資源を活用しながら、多面的に図書館の底力を発揮する仕組みづくりや図書館サービスを推進する担い手の充実が図られてきたのである。

今や、葛飾区の図書館は新しいイメージを発信し、多くの区民に親しまれる公共機関とし

ての位置を確立しつつある。しかしながら、なおいっそう、図書館に縁遠かった人たちにも図書館が身近なものになって、より多くの区民に親しまれる図書館へと発展していくことが必要である。

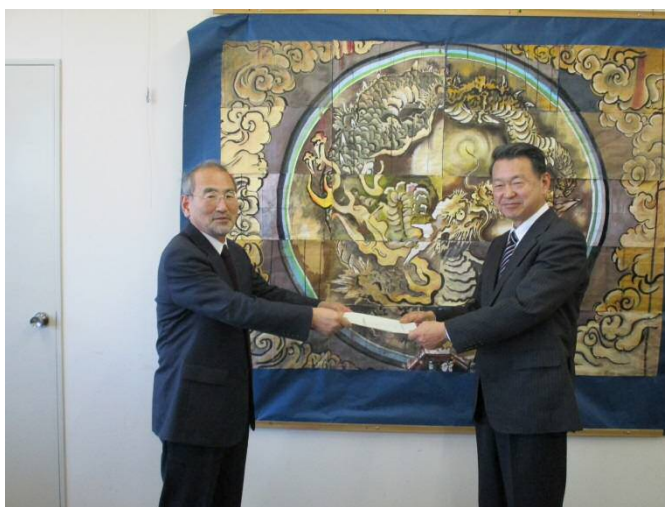
そのような課題意識をもとに、検討を重ねていく過程において、そもそも図書館は何のためにあるのか、基本理念を押さえる必要性が自覚されるようになった。情報化の進展というような新しい図書館をめぐる状況の中で、本来の図書館の基本理念をどのように広め深めていくかを忘れてはならない、ということになった。図書館を取り巻く状況が変化しつつも、基本理念をとらえた上で、これからの葛飾の図書館の在り方を考えていこうということである。

「より幅広い人たちに図書館を届ける」という基本軸、言ってみれば、このあたりまえとせばあたりまえの論点は、「なぜ、そんなに図書館にこだわるのか」という原理的な問いを誘発した。

あらためて、すべての区民を視野に入れたサービスの在り方は、その原点に立ち返ることになった。人間生活にとって、「本に親しむ生活」という文化を大事にすることが、豊かな生活、豊かな社会を築いていく営みにつながるだろう。

図書館を「知の拠点」とは言うものの、知性を振りかざすことを求めているわけではない。一人ひとりが自らの感性や思いに従って発信する力を持ち、それらが集積されて、社会の良心が広がっていく。そんな社会を私たちの地域に創り出していく上で、図書館は重要な役割を果たしているのではないだろうか。

そういう図書館の働きを十分に発揮するよう期待を込めると、そこで働く人たちに、仕事のやりがいを実感できるよう専門性を高め、鍛えていっていただきたいと願う。それとともに、行政によって、そうした条件をしっかりと整備する体制づくりが進むことを願って、この提言書をまとめた。



上田議長から塩澤教育長へ提言を提出

資料編

- 第 11 期社会教育委員の会議の協議テーマ
- 第 11 期社会教育委員名簿
- 第 11 期社会教育委員の会議 協議経過
- 平成 29(2017)年度 葛飾区立図書館の主な行事
- 葛飾区立図書館マップ

第 11 期社会教育委員の会議の協議テーマ

1 協議テーマ

区民のよりどころとなる図書館を目指して

2 理由

I C Tの急速な発展による生活スタイルの多様化や区民意識の複雑・高度化などにより、図書館を取りまく状況は大きく変化しました。インターネット環境や電子書籍の普及、若い層の活字離れなど、紙の媒体に触れる機会や必然性が減少する中で、図書館の在り方が問い直されています。

一方で近年、カフェや書店を併設したり、複合施設化するなど、自治体によって様々な形態の図書館が設置されて話題を呼んでいます。図書館は「本を貸すところ」「本を静かに読むところ」から、地域の住民がさまざまな課題を解決する場所として、一歩進んだサービスを考える時代になっています。

そうした流れを受けて、葛飾区立図書館では、平成 26 年度から 30 年度を実施期間とする教育振興基本計画に基づく『葛飾区立図書館の基本的な考え方【取り組み方針】』で、「いつでも、どこでも、だれにでも 区民の拠り所となる図書館」を目指して様々な取り組みを行っているところです。

社会教育の大きな柱である図書館ですが、これまで、社会教育委員の会議の協議テーマとして取り上げたことがありませんでした。

今般、この【取組方針】が平成 30 年度に実施期間を終了し、新たな取り組み方針を策定するにあたり、目指すべき図書館像を社会教育委員の方々にご検討いただくことは大変有意義であると考え、今回のテーマとして設定いたしました。

第 11 期社会教育委員名簿（任期 平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

氏 名	現 職 等	選出区分	備 考
上田 幸夫	日本体育大学教授	学識経験者	議長
朝野 熙彦	葛飾図書館友の会会長	社会教育関係者	副議長
糸賀 雅児	慶応義塾大学名誉教授	学識経験者	
竹高 京子	葛飾区学校図書館ボランティア連絡会 代表	社会教育関係者	
山浦 敬子	ととけっこう（読み聞かせボランティアの会） 代表	社会教育関係者	
山田 雄二	葛飾区立中学校 P T A 連合会 代表	社会教育関係者	平成 30 年 7 月 11 日から
風澤 明子	葛飾区立南綾瀬小学校校長	学校教育関係者	
入山 賢一	葛飾区立一之台中学校校長	学校教育関係者	
高橋 俊浩	葛飾区立中学校 P T A 連合会 代表	社会教育関係者	平成 30 年 4 月 13 日まで



第 11 期社会教育委員の会議 協議経過

回	月 日	内 容
第 1 回会議	平成29年 6月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育委員の委嘱 ・ 正副議長の選出 ・ 協議テーマの確認 ・ 社会教育関係団体への補助金の審議
第 1 回 正副議長会	6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金交付についての答申について ・ 議事運営について
第 2 回会議	7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葛飾区立図書館の基本的な考え方【取組方針】について
第 3 回会議	9月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々が図書館に求めるもの（糸賀委員報告）
第 2 回 正副議長会	9月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議スケジュール、議事運営について
第 4 回会議	10月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他区図書館の取組みについて（ゆいの森あらかわ視察）
第 5 回会議	11月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の動向について（第19回図書館総合展視察）
第 6 回会議	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視察の振り返り ・ 提言の骨子づくりに向けて ・ 立石図書館視察
第 3 回 正副議長会	12月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議スケジュール、議事運営について
第 4 回 正副議長会	平成30年 1月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議スケジュール、議事運営について
第 7 回会議	1月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育関係団体への補助金の交付について ・ 提言の骨子づくりに向けての論点整理 ・ 中央図書館視察
第 8 回会議	2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言の構成の検討 ・ 起草委員の選出 ・ 葛飾区教育振興基本計画についてのヒアリング
第 1 回 起草委員会	3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言の作成について
第 9 回会議	4月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言について
第 2 回 起草委員会	5月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提言の作成について

回	月 日	内 容
第 10 回会議	平成30年 6月8日	・社会教育関係団体への補助金の審議 ・提言について
第 3 回 起草委員会	7月30日	・提言の作成について
第11回会議	8月10日	・提言について
第 4 回 起草委員会	9月14日	・提言の作成について
第12回会議	10月12日	・提言について ・教育委員会委員との懇談会について
第 5 回 起草委員会	10月30日	・提言の作成について ・教育委員会委員との懇談会について
第13回会議	11月21日	・教育委員会委員との懇談会 ・提言について
第14回会議	12月21日	・提言について ・提言の普及について
第15回会議	平成31年 1月11日	・提言の提出 ・教育長との懇談
第16回会議	3月19日	・提言の普及について

平成 29(2017)年度 葛飾区立図書館の主な行事

1 一般向け行事（一部児童向けを含む）

(1) 周年記念イベント・特別イベント・講演会

①中央図書館8周年（秋の読書週間特別イベント）

館名	行事名
中央	英語の看板から見えてくるもの
	図書館バックヤードツアー ―中央図書館を知り尽くそう！―
	たんじょう日の絵本読み
	秋の読書週間特別イベント ―絵本誕生秘話 そしてまど・みちおさんのこと―
	「若者」からみる現代社会の幸福学
	育児パパあつまれ！男性図書館員によるおはなし会
	大人のための朗読会と朗読体験
	ティーンズ向け★イラスト講座

②周年記念イベント・休館特別イベント

館名	行事名
お花茶屋	開館 40 周年記念映画会
	開館 40 周年記念講演会「谷川俊太郎氏と楽しむ詩と言葉」
上小松	開館 40 周年記念講演会「大名たちの決断 ―関ヶ原の戦い―」
	上小松図書館 40 周年記念行事「万華鏡をつくろう！」
	上小松図書館 40 周年記念行事「お楽しみ会（アニメーション）」
鎌倉	鎌倉図書館 30 周年記念行事 大人のおりがみ講座「サンタクロースのブーツを折ってみませんか？」
新宿	新宿図書センターさよならリサイクル市（一般区民向け）

③講演会

館名	行事名
中央	暮らしに役立つ法律セミナー「弁護士に聞く相続・遺言のポイント」
	医療・健康情報講演会「がん哲学外来」
	地域資料講演会「幻の『葛飾新聞』を読む」
立石	昭和の喜劇人たち ―エノケン、ロッパから清水清まで―
	泣いた笑ったデパートマン人生 41 年を語る
	認知症対策！ ―知っていれば怖くない―
	隠された幕末史
お花茶屋	健康医療講演会「高齢期の腰痛と食事について」
水元	水元図書館リニューアル記念講演会「知って得する健康生活」
鎌倉	現役時代にこれだけはやっておきたい！人生百年時代 老後の安心マネープラン
	人生たな卸し！お墓・お布施・供養について
	―墓じまい時代の基礎知識と私の覚書きノート―

(2) ビジネス支援セミナー

【中央図書館】 7回 【立石図書館】 9回

(3) ビジネス相談会

【中央図書館】(毎月第3土曜日) 12回 【立石図書館】(毎月第1日曜日) 12回

(4) データベース講習会

【中央図書館】 2回 【立石図書館】 3回

(5) 映画会

館名	一般映画会	1日映画会	バリアフリー映画会	計
中央	6回	0回	1回	7回
立石	5回	1回	2回	8回
お花茶屋	1回	1回	0回	2回
上小松	3回	0回	0回	3回
亀有	12回	0回	0回	12回
鎌倉	8回	0回	0回	8回
計	35回	2回	3回	40回

(6) ボランティア養成関連行事

①【立石図書館】読み聞かせボランティア講座(初級) 全5回

- ②【中央図書館】読み聞かせボランティア講座（乳幼児編） 全5回
- ③【中央図書館】ブックスタート講演会
- ④【中央図書館】点訳ボランティア養成講座(スキルアップ編) 全4回
- ⑤【中央図書館】音訳ボランティア養成講座（スキルアップ編） 全3回
- ⑥【中央図書館】布絵本ボランティア養成講座
- ⑦【中央図書館】読書支援ボランティア養成講座（スキルアップ編）

(7) その他

- ①【鎌倉図書館】大人のためのお話サロン(朗読会) 全10回
- ②高齢者施設訪問 【鎌倉図書館】21回 【西水元地区図書館】4回
- ③特別行事・展示

館名	行事名
立石	環境★大研究
	ブックトレード「おすすめの本の交換市」
お花茶屋	大人の職場体験
	大人のための語りの会「はじまり」
亀有	本のおみくじ
水元	笑いの世界「水元図書館寄席」

- ④【亀有図書館、新宿図書センター】ビブリオバトル（知的書評合戦）
- ⑤葛飾図書館友の会共催行事

館名	行事名
中央	友の会ナイトシアター 計13回
	友の会CD・DVDコンサート 計11回
	キーワード読書会 計6回
	友の会ウィーク 高齢者による衝撃的リコーダー演奏会
	友の会ウィーク 手袋人形講習会
	友の会ウィーク 特別講演会「いまここ（だ）から（こそ）の読書」
	友の会特別イベント 新年かるた会

2 子ども向け行事

(1) おはなし会等

館名	子ども 映画会	おはなし 会	絵本 読み聞か せ	おひざに だっこの おはなし会	特別 おはなし会	いろん な ことばの おはなし会	計
中央	1回	31回	378回	24回	9回	4回	447回
立石	2回	21回	72回	46回	7回	1回	149回
お花茶屋	1回	22回	24回	45回	2回	0回	94回
上小松	1回	19回	18回	36回	2回	0回	76回
亀有	0回	18回	48回	21回	2回	0回	89回
水元	0回	11回	47回	22回	5回	0回	85回
鎌倉	0回	21回	52回	12回	4回	2回	91回
四つ木	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
西水元	0回	9回	0回	0回	2回	0回	11回
青戸	0回	0回	9回	11回	2回	0回	22回
奥戸	0回	0回	0回	10回	0回	0回	10回
こすげ	0回	0回	0回	9回	6回	0回	15回
新宿	0回	3回	3回	1回	2回	0回	9回
計	5回	155回	651回	237回	43回	7回	1,098回

(2) 児童講演会

【中央図書館】絵本のたのしみ ―ことばであそぼう―

(3) 記念おはなし会・絵本読み・読み聞かせ 12館 計13回

(4) 記念展示

館名	展示内容
中央	「かつしかの本棚 ―Book Journey―葛飾区立図書館子ども読書活動」の展示
立石	ぬいぐるみたちが読んだ本の紹介展示 ニューベリー賞やカーネギー賞をとった本の紹介展示
お花茶屋	「よい絵本」の展示
上小松	「よい絵本」の展示
水元	「子どもの本 昔と今」の展示
鎌倉	「ぬいぐるみがえらんだ本」の展示
四つ木	「よい絵本」の展示

西水元	「ぬいぐるみがえらんだ本」の展示
奥戸	「ぬいぐるみがえらんだ本」の展示

(5) 記念イベント

館名	行事名
全館	ぬいぐるみの図書館おとまり会
お花茶屋	子ども読書の日記念行事 としょかんクイズ
亀有	おたのしみボックス
	おたのしみボックスをつくってみませんか?
水元	子ども読書の日記念行事「ほんのはなひらいた」
西水元	おたのしみボックス
青戸	おたのしみボックス
こすげ	としょかんスタンプラリー

(6) 施設訪問・招待

館名	保育園 幼稚園	児童館	学級招待	学級・ 学校訪問	保健 センター	障害児 学校	計
中央	54回	0回	2回	20回	0回	9回	85回
立石	83回	8回	6回	41回	1回	0回	139回
お花茶屋	54回	12回	4回	9回	0回	0回	79回
上小松	81回	3回	4回	1回	0回	0回	89回
亀有	57回	0回	0回	47回	0回	0回	104回
水元	81回	3回	11回	6回	0回	8回	109回
鎌倉	55回	4回	6回	1回	0回	0回	66回
四つ木	41回	0回	0回	30回	0回	0回	71回
西水元	7回	4回	3回	0回	0回	1回	15回
青戸	32回	3回	0回	1回	0回	0回	36回
奥戸	27回	0回	0回	15回	0回	0回	42回
こすげ	18回	0回	4回	0回	0回	0回	22回
新宿	13回	0回	0回	2回	0回	0回	15回
計	603回	37回	40回	173回	1回	18回	872回

(7) ブックスタート (対象：0歳) 配付総数 3,756冊

(8) セカンドブック (対象：3歳) 配付総数 2,463冊

(9) かつしかっ子ブック (対象：小学1年生、中学1年生) 配付総数 6,749 冊

(10) 図書館見学

館名	図書館見学	一日 図書館員	かみしば いの会	科学絵本 ・工作の会	子ども 司書クラブ	図書館 クイズ	計
中央	1回	3回	16回	0回	0回	2回	22回
立石	0回	3回	5回	2回	17回	0回	27回
お花茶屋	0回	3回	4回	3回	0回	1回	11回
上小松	0回	3回	0回	0回	0回	0回	3回
亀有	1回	3回	0回	1回	0回	0回	5回
水元	1回	3回	11回	2回	15回	1回	33回
鎌倉	4回	3回	0回	0回	29回	0回	36回
四つ木	2回	1回	0回	0回	0回	0回	3回
西水元	8回	1回	0回	0回	0回	1回	10回
青戸	3回	1回	0回	0回	0回	1回	5回
奥戸	2回	1回	0回	0回	0回	0回	3回
こすげ	3回	1回	0回	1回	0回	0回	5回
新宿	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
計	25回	26回	36回	9回	61回	6回	163回

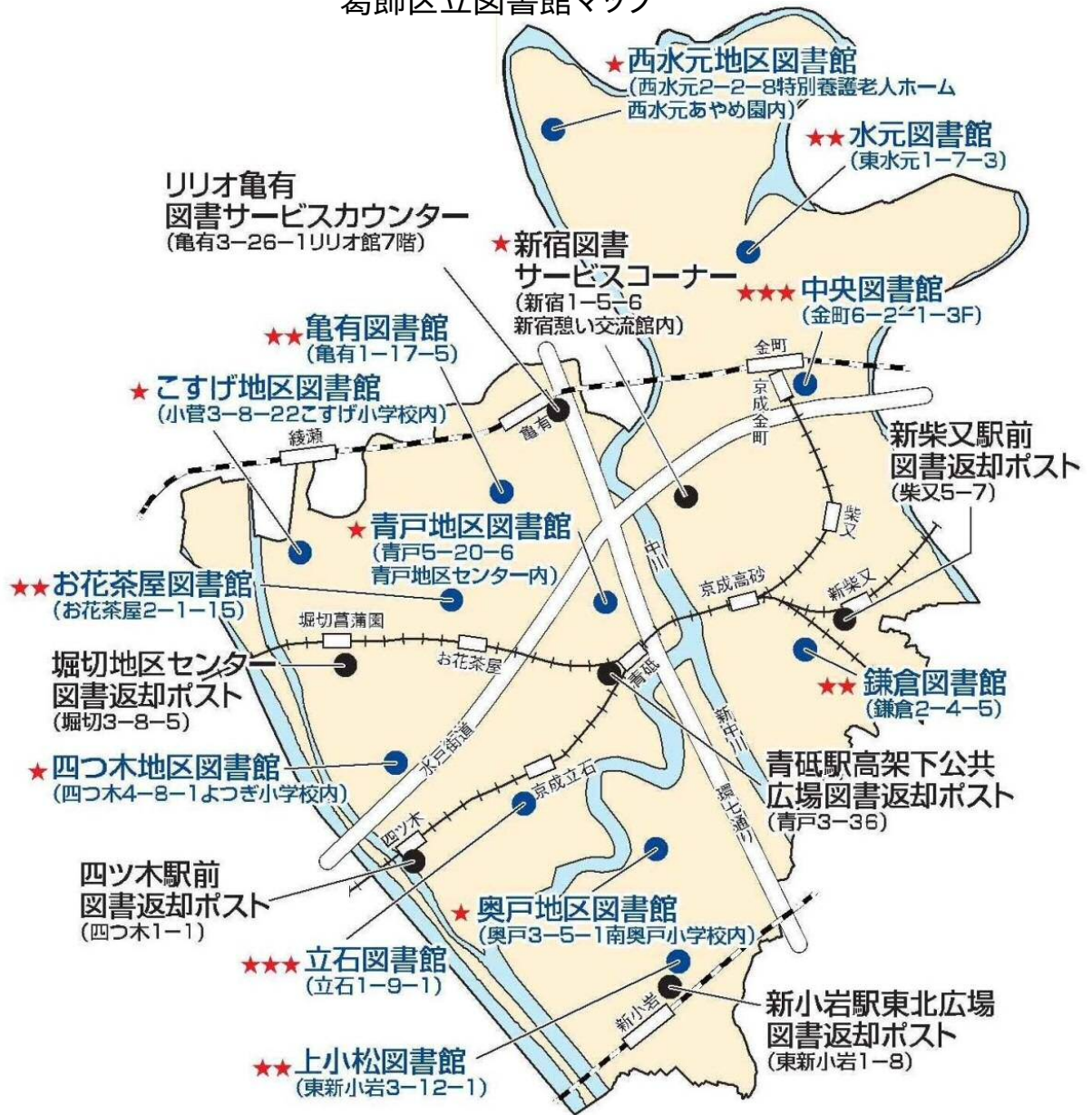
(11) その他子ども向け行事

- ①わらべうたの会 【中央図書館】 12回 【水元図書館】 1回
- ②絵本の講座 【中央図書館】 12回 【鎌倉図書館】 5回
- ③図書館訪問・インタビュー 【上小松図書館】 2回 【亀有図書館】 2回
【西水元地区図書館】 1回 【青戸地区図書館】 1回
- ④小学生による絵本読み 【お花茶屋図書館】 3回 【上小松図書館】 1回
- ⑤訪問・招待 【青戸地区図書館】 2回
- ⑥人形劇の会 【立石図書館】 1回 【水元図書館】 1回
【西水元地区図書館】 1回
- ⑦出前講座「子どもの絵本の選び方について」 【中央図書館】 2回
- ⑧パソコンを使った親子手づくり絵本教室 【中央図書館】 5回

⑨特別行事

館名	行事名
中央	点字体験講座「点字で遊ぼう！学ぼう！」
	夏休み自由研究おうえんたい
	かつしか地図散歩
	らんらんフェスティバル
立石	図書館でしらべてみよう！「チョコレートのひみつ」
上小松	リサイクル市
亀有	ブックジャングルたんけん！一きごうをヒントに本をさがそうー
	かめっこおみくじ
水元	かみしばいまつり
四つ木	パフィンクエスト
西水元	スタンプラリー2017
こすげ	なかみはなあに？

葛飾区立図書館マップ



【開館時間】

★★★：月～土 午前9時～午後10時 / 日・祝 午前9時～午後8時 ※いずれも児童室は午後6時まで
年末年始：12/29～30 午前9時～午後8時 / 12/31～1/3 午前9時～午後5時

★★：火～土 午前9時～午後8時 / 日・祝 午前9時～午後5時 ※児童室は5時まで

★：火～木・土・日 午前10時～午後5時 / 金曜日 午前10時～午後8時

リリオ亀有図書サービスカウンター：火～土 午前10時～午後9時 / 日・祝 午前10時～午後7時

【休館日】

各館共通：第4木曜日・特別整理期間

★★：月曜日(祝日の場合は翌日に振替)・年末年始

★：月曜日(祝日の場合は翌日も休館)・祝日・年末年始

リリオ亀有図書サービスカウンター：月曜日(祝日の場合は翌日)・第4木曜日・年末年始・リリオ館の店休日(年2日)

区民のよりどころとなる図書館を目指して
(提言)

平成 31 (2019) 年 3 月
第 11 期 葛飾区社会教育委員の会議

発行 葛飾区教育委員会事務局生涯学習課
〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1
電話 03-5654-8479